

論争

言語と精神の 自己植民地化からの脱却を

久保田 竜子

（くぼた りゅうこ）カナダ、ブリ
ティッシュコロンビア大学教授

安保関連法案の国会審議が続く中、若者たちが街頭で反対の声を上げている。メディアも大きく報じ、彼らの熱い行動はテレビ・新聞・ネットを通じて映し出されている。でたらめな法案や審議に対する型破りの異議申し立てに、海外から参加したい。

その時、抗議する一人として一つ気になることがある。それは、現場のプラカードに英語が溢れていることだ。従来のデモと異なる新鮮な、若々しいスタイルを演出しているのか。「中高年のタサイデモとは違う」というメッセージを込めているのか。「伝えたいことを日本語で書く」と古くさい（照れくさい）といった感情が働いているのか。あるいは戦略として、海外へのアピールを意識して

いるかもしれない。さまざまな背景があるのだろうと推測しつつ、本欄では、英語使用が、「自己植民地化」という「象徴的意味」を抱える問題を指摘したい。

安保関連法案は、日本が米軍行動の片棒を担ぐことができるようにする、ひいては米国の行なう人殺しに加盟する、というものである。その根底には湾岸戦争、さらにさかのほれば朝鮮戦争以来、米国が日本に強いてきた軍備化への圧力がある。現場の抗議者はこうした政治的・歴史的背景を理解した上で行動していることと思うが、現時点でまずは、圧力に屈し米国の権力に媚びる日本政府のみに向けられている感がある。

あえて英語を利用するならば、米国政府や関係者、そして米国の有権者にも訴えかけるのが筋の通った抗議方法だろう。米軍と一体化して日本が軍事行動を起こそうとしている中、日本政府に抗議するだけでは惜しい。

万が一、抗議者の中に「英語至上主義」に基づいて英語を使用している人がいたら、これは米国に媚びる日本政府と同じ姿勢、「言語と精神の自己植民地化」そのものだろう。自己植民地化の裏返しはアジア蔑視だ。今回、安倍晋三首相が発表した戦後70年談話は英訳がまず公表され、追って中国語と韓国語訳が出された（私が購読している地方紙では公表が1日ずれていた）。これだけでも、日本政府がどちらを向いている

るのが推し量れる。帝国日本が与えた多大な被害への「反省」と「お詫び」の気持ちに言及するならば、まず、被害国の言葉で表明するのが礼儀だ。私が研究調査でインタビュした中国・韓国に駐在経験のある企業人の多くは、顧客と初対面の場合には相手方の言語で挨拶すると話していた。が、外務省官僚の「国際感覚」では米国のご機嫌しか念頭にない。

ケニアのポストコロニアル作家であるグギ・ワ・ジオンゴは、宗主国の言語である英語と決別して、母語のキクユ語で執筆活動を始めるようになった。言語の選択にはその根底に象徴的な意味合いがある。その象徴的意味を踏まえ、より戦略的に英語を駆使する活動を展開してほしい。

9・23脱原発・反戦争集会への参加を

市民運動グループの自己紹介欄です。連絡先（住所・電話番号）を含め15字×40行で、「こんなこと、やっています」係宛にお送りください。掲載の場合はご連絡します。

こんなこと、やっています



8月30日の全国100万人大行動は、国会議事堂前に12万人の市民が結集するなど、大きな成果を挙げることができました。

しかし、安倍政権の悪政はとどまることを知りません。国民世論に背を向け、戦争法案を多数の力で可決しようとする姿勢を崩していません。川内原発を再稼働させ、その直後に復水器への海水混入卜

ラブルを起こしながら、他の原発の再稼働も狙っています。しかも東京オリンピックには湯水のように税金をつぎ込む一方で、福島原発事故の避難者に対する事実上の切り捨てを強行しようとしています。沖縄・辺野古の米軍基地建設も、県民の反対の意思を無視し、あきらめようとしません。

こんなひどい政権は、一日も早

く退陣させするべきです。そこで「さようなら原発」一千万署名市民の会」は、「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」と協力して9月23日の秋分の日、東京・代々木公園で「さようなら原発さようなら戦争」と銘打った全国集会を開催します。

各地で戦争法案反対行動や川内原発反対運動、辺野古新基地建設阻

止の闘い等を担う代表がアピール。作家の澤地久枝さんや落合恵子さん、河合弘之弁護士といった多様な顔ぶれも駆け付けます。

この秋、安倍政権を追い詰める大きな闘いを巻き起こしましょう。問合せは、「さようなら原発1000万人アクション」実行委員会（☎03-15289-8224。☎<http://sayonaranukes.org/>）まで。